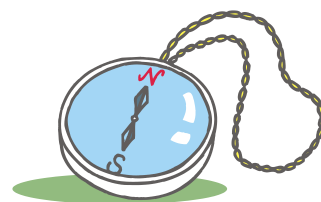


羅 針 盤

第 **38** 号 令和6年3月18日（月）



◆ 「雨だれ石をうがつ」

先週半ばの3月13日（水）に挙行した本校の卒業証書授与式で、第75期生の皆さんに式辞を通じて贈った「雨だれ石をうがつ」という言葉を紹介します。

「雨だれ石をうがつ」この言葉の中の「雨だれ」というのは、家の屋根や軒先からぽたぽたと落ちる雨のしずくのことです。また、「石をうがつ」の「うがつ」とは、穴をあける、あるいは、突き抜けるといった意味で、「石をうがつ」というのは、「石に穴をあける」といったような意味となります。つまり、こういったことを意味しているのかというと、家の屋根や軒先から落ちる雨だれのような小さなしずくでも、長い時間をかけてずっと同じところに落ち続けると、硬い石にさえも穴をあけてしまうことがあるということです。このことから、「どんなに小さな力でも根気よく努力さえ続けていけば、いつかは必ずその結果として大きな成果が得られるようになる」ということを意味していることとなります。石に穴をあけるといったようなことは、やすやすと簡単にできることではありません。強く叩けば叩くほどに、石は割れてしまうことでしょう。だからこそ、長い長い時間をかけながら、ただひたすらに同じことを繰り返し続けることによって、どんなに硬い石であっても一見できそうにもないような「石に穴をあける」といったことを実現することができるというわけです。城陽中学校のよき伝統を受け継いできた卒業生である3年生だけでなく、1年生や2年生の皆さんも、1年後、あるいは、2年後に、この城陽中学校を巣立ちゆくこととなります。中学校を卒業した後は、自分が目指すべき自らの姿といったものを持つ時期がいつか必ずやってきます。その自らが目指す「なりたい自分の姿」となるためには、いったいどれほどの努力が必要であるかは、誰にもわからないことです。しかし、それでもその必要となる努力を、この雨だれのように地道に繰り返してもらいたいと思います。あせってしまったり取り組むことで、石を割るようなことになってしまったりは、元も子もありません。焦ることなく、じっくりと時間をかけて、取り組んでほしいと思います。「雨だれ石をうがつ」という言葉の「石をうがつ」という結果は、はじめから期待できるものではありません。努力し続けることを決して諦めなかったというその先にこそ、結果として最後についてくるもののはずです。地道にこつこつと努力を積み重ねることに大きな価値を見いだして、毎日欠かさずに繰り返すことを忘れることなく、



物事に真摯に向き合い、ただ黙々と取り組むことが大切であるといったことを実感として感じ取ってもらいたいと思います。「雨だれ石をうがつ」のごとく、研鑽を積み重ね続けた先には、大きく成長することのできた自分自身と必ず出会うことができるはずです。その姿を信じて疑うことなく、どんなときも努力を怠ることのない皆さんでいてくれることを大いに期待しています。